

《専門科目》

科目名	保育者・教職原論				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育所保育士・幼稚園教諭・保育教諭など多様な職場で活躍する保育者の実態を理解し、幼児教育の担い手としての保育者について、チーム学校の一員としての職務の特徴や内容、課せられた義務や果たすべき責任について学び、資料収集や発表を通して幼児教育のねらいを達成することのできる、高い専門性を身に付けた保育者としてのキャリア形成について自ら考える力を培う。

《授業の到達目標》

保育者の存在意義、職業的特徴、求められる役割、基礎的な資質能力、職務の全体像等を理解し、説明することができる。また、研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性、服務上・身分上の義務及び身分保障などを理解し、組織の一員として組織的に諸課題に対応することの重要性について、自分の考えを持ち表現することができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポートを60%、最終レポートを40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「保育者論-主体性のある保育者を目指して-」2020年萌文書林

《参考図書》

「保育用語辞典第8版」平成27年4月、ミネルヴァ書房
「保育者論」2020年、萌文書林

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、教科書の該当ページを精読した上で、文献・インターネット等を用いて自己学習する。教員からのフィードバックを基に、学修内容を振り返り、小レポートを修正して、最終レポートに備える。本授業では60時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

毎授業回で実施する小レポートは、コメントを付してフィードバックし、次の授業で解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者とは何か	他の職業と比較した保育者の特性、保育者の役割について考える 〔時間外学習〕テキスト全体を概観し、テキスト第1章を読んでおくこと
2	幼稚園や保育園で働く保育者	幼稚園教諭と保育士との共通点や違いについて理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第2,3章を読んでおくこと
3	こども園や施設で働く保育者	こども園で働く保育教諭、施設で働く保育士の仕事内容について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第4章を読んでおくこと
4	保育者に求められる倫理	保育指針や関係法令等に示された保育者の倫理、子どもの最善の利益について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第5章を読んでおくこと
5	保育者の制度的位置づけ	保育者の法的定義を確認し、信用失墜行為、守秘義務について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第6章を読んでおくこと
6	保育者の専門性(1) 子ども理解	保育者の心構え、子ども理解の重要性やその方法について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第7章を読んでおくこと
7	保育者の専門性(2) 養護と教育	養護・教育それぞれの意味、その一体的展開について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第8章を読んでおくこと
8	保育者の専門性(3) 保育の質の向上	保育の質について考え、保育の質を向上させるための方法を理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第9章を読んでおくこと
9	保育者の専門性(4) 保育実践と省察・評価	保育におけるPDCAサイクルの意味、その具体的方法について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第10章を読んでおくこと
10	海外の保育に学ぶ	海外の保育の状況について関心を持ち、日本の保育との違いやその背景について考える 〔時間外学習〕「海外の保育」で検索し、サイト内容を閲覧しておくこと
11	保育者の連携・協働(1) 園内の保育者チーム	園内の様々な職種に注目し、チームとして保育をしていることやそれぞれがチームの一員であることを理解する〔時間外学習〕テキスト第11章の1を読んでおくこと
12	保育者の連携・協働(2) 家庭との連携	家庭との連携、子育て支援について知り、よりよい保育のあり方について理解する〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第11章の2を読んでおくこと
13	保育者の連携・協働(3) 専門機関や地域との連携	保育を支える行政の役割、自治体や専門機関との連携、保幼小の連携について理解する〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第12章を読んでおくこと
14	保育の現代的な課題	保育職の特徴やメンタルヘルスの維持、就労継続の問題について理解する 〔時間外学習〕前回の学修を振り返り、テキスト第14章を読んでおくこと
15	理想の保育者を目指して	保育者に求められる様々な指標をもとに今の自分の姿を見つめ、保育職に向けて必要となる事柄を分析する〔時間外学習〕テキスト第15章を読んでおくこと

《専門科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	倉澤 俊夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

「教育とは何か」「教育はどうあるべきか」という、教育の本質及び目的について理解を深める。教育に関する基礎的知識を理解し、それを基盤として、よりよい教育・保育活動の実現に積極的に取り組むことができる力量を身につける。

《テキスト》

「幼稚園教育要領」 <平成29年告示>
「幼稚園教育要領解説」 <平成29年告示>

《参考図書》

授業時に適時紹介する。

《授業の到達目標》

保育者として必要な教育の基礎理論を修得し、その理論について説明できる。教育の理念・歴史・思想や、教育に関する社会的・制度的・経営的な基本事項を理解し、説明することができる。幼稚園及び保育施設における教育実践の様々な取り組みやそこでの課題について理解し、その解決方法を考え、説明することができる。

《授業時間外学習》

・各授業の最後に書いた、「振り返りシート」を基に、この授業で何を習得したのか、何が理解できなかったのかについて整理しておく。
・各時間に配布したパワーポイントの資料を基に学習内容を整理する。本授業では60時間の時間外学修が必要です。

《成績評価の方法》

定期試験60%、グループ発表・振り返りシート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

「振り返りシート」を活用し、学生の理解度を確認し、理解度が低い内容については翌週の授業の中でフィードバックする。よくできた内容については翌週の授業の中で紹介する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育とは何か	教育原理を学ぶ意義と目的について 準備学習：「教育とは何か」についてインターネット等を利用し調べておく。
2	生涯学習とは何か	発達段階と学習 準備学習：エリクソンの発達課題についてインターネット等を利用し調べておく。
3	幼稚園と保育所の歴史	幼稚園と保育所の歴史および制度 準備学習：幼稚園と保育所の歴史について、事前に調べておく。
4	教育課程について	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿 準備学習：幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」P13～を読む。
5	教育課程と指導計画	指導計画作成のポイント 準備学習：各自、参考になると思う指導計画表を探して印刷しておく。
6	保育者の指導方法	援助と指導の基本的な理解 準備学習：幼児教育の指導方法にはどのようなものがあるか、まとめておく。
7	保育の評価について	幼稚園における幼児理解と評価の考え方 準備学習：幼稚園における評価について、幼稚園教育要領P11～を読んでおく。
8	教師の役割	保育者としての教師の役割 準備学習：幼稚園教諭の役割について、自分の意見をまとめておく。
9	諸外国の教育思想	古代～中世の教育、コメニウス、ルソー等 準備学習：コメニウス、ルソーについてインターネット等を利用し調べておく。
10	諸外国の教育思想	デューイ、ペスタロッチ等 準備学習：デューイ、ペスタロッチについてインターネット等を利用し調べておく。
11	日本の教育思想	倉橋惣三等 準備学習：倉橋惣三についてインターネット等を利用し調べておく。
12	世界の様々な教育方法	モンテッソーリ教育、シュタイナー教育、レッジョ・エミリア・アプローチ等 準備学習：興味を持った幼児教育における教育方法について調べてくる。
13	新しい保育の課題（多文化共生社会）	外国にルーツをもつ子どもへの指導援助 準備学習：外国にルーツをもつ子どもについてインターネットを利用し調べておく。
14	保育の現状と課題について（討議）	保育の現状と課題について・グループワーク（討議） 準備学習：各グループで、発表するテーマを設定する。
15	保育の現状と課題について（発表）	保育の現状と課題について・グループワーク（発表） 準備学習：各グループで、発表する資料を準備しておく。

《専門科目》

科目名	保育原理				
担当者氏名	倉澤 俊夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		1-1 教養 2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育の基礎理論、特に保育とは何かという、保育の本質について理解を深める。また、保育の意義、保育の基本、保育の内容と方法、保育の歴史について理解し、保育の現状と課題について考察することができる基礎的な力を学修する。
既習内容の発表や討論を行い、学修内容の理解を深める。

《テキスト》

「保育所保育指針」 平成29年告示 厚生労働省
「保育所保育指針解説」<平成29年告>厚生労働省

《参考図書》

授業時に適時紹介する。

《授業の到達目標》

保育に関する理論の基礎的事項について説明できる。
保育の現状から課題を見出し、その解決のために基礎理論に基づいた考察ができる。

《授業時間外学習》

・各授業の最後に記入した「振り返りシート」をもとに、各授業で何を修得したのか、何を理解できなかったのかについて整理する。
・各時間のパワーポイントの資料を基に学習内容を整理する。
本授業では60時間の時間外学修が必要です。

《成績評価の方法》

定期試験50%、振り返りシート30%、グループ発表10%、討議等への意欲や態度を10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

「振り返りシート」を活用し、学生の理解度を確認し、理解度が低い内容については翌週の授業の中でフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の意義	保育原理を学ぶ意義や目的について 準備学習：「保育とは何か」についてインターネット等を利用し調べておく。
2	幼稚園・保育所・認定こども園	幼稚園と保育所の違い及び認定こども園の役割 準備学習：幼稚園・保育所・認定こども園の特徴について調べておく。
3	保育所保育指針に基づく保育 総則	保育所保育指針とは何か、その内容と特徴について(改訂の概略) 準備学習：保育所保育指針「第1章 総則」P4を読んでおく。
4	保育所保育指針に基づく保育 アタッチメント	保育所保育指針における幼児教育の位置づけについて アタッチメントを中心として 準備学習：保育所保育指針「第1章 総則」P6を読んでおく。
5	子ども・子育て支援新制度と保育に関わる法令	子ども・子育て支援新制度について 準備学習：子ども・子育て支援新制度について制度の概要について調べておく。
6	保育の目標と方法	保育の5領域と環境 準備学習：保育所保育指針「第2章 保育の内容」P13をよく読んでおく。
7	諸外国における保育の歴史と理念	諸外国の保育の歴史と理念について 準備学習：諸外国の保育の考え方についてインターネット等を利用し調べておく。
8	諸外国における特徴ある保育	諸外国の保育の歴史と理念について 準備学習：諸外国の特徴ある保育(エミリア等)について調べておく。
9	環境を通じた保育	環境を通じた保育とは何か、環境を通じた保育の好事例 準備学習：環境を通じた保育とは何か、自分の意見をまとめておく。
10	保育の計画	保育の計画、活動、評価の流れ 準備学習：気になる保育園の保育課程を調べておく。
11	保育の評価と記録	保育における評価の目的や評価方法について 準備学習：保育の評価の事例を1つ探しておく。
12	エピソード記録	エピソード記録について、記録方法 準備学習：エピソード記録の事例を1つ探しておく。
13	子どもの健康及び安全	子どもの健康支援、食育の推進、災害への備え 準備学習：保育現場で実践したい食育活動について考えておく。
14	保育者の専門性	保育者の専門性とは何か、保育者の専門性を高める方法について 準備学習：保育者の専門性とは何か、自分の考えをまとめておく。
15	保育現場の現状と課題	日本における保育の現状と課題(グループ討議・発表) 準備学習：日本における保育の現状と課題について、自分の考えをまとめておく。

《専門科目》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

待機児童・虐待・貧困等、子育てに関する様々な問題解決が社会全体で求められている。保育士を目指す者は、その専門性をより一層高めるために、社会福祉について深く理解する必要がある。保育に関連する社会福祉および子ども家庭支援に関する事項について様々な視点から学び、保育の理念を理解することで保育士としての土台を修得する。

《授業の到達目標》

社会福祉の歴史の変遷・動向を踏まえて、社会福祉における子ども家庭支援の視点について述べるができる。
社会福祉の制度・実施体系等について説明できる。
社会福祉における相談援助について述べるができる。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる。
社会福祉の動向と課題について述べるができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、ワークシート30%、定期試験70%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ4
松原康雄他編集「社会福祉」中央法規

《参考図書》

福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典（第2版）」（テコム 2017）
「子どもによる子どものための子どもの権利条約」
小口尚子・福岡鮎美著（小学館）

《授業時間外学習》

社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。
各授業に参加するにあたって事前に提示された課題を学習しておくこと。
授業後はワークシートに授業のまとめを整理し、課題の見直しをすること。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業で提出されたワークシートに対してフィードバックを行います。疑問点や質問は授業内、授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉の理念と歴史の変遷	社会福祉とは何か、理念と実践とは、人々の命や生活に果たす役割の理解 予習：教科書p2-12 復習：教科書該当箇所・ワークシート
2	子ども家庭支援と社会福祉	家庭支援の重要性と子ども家庭支援の具体的役割の理解 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート
3	社会福祉の制度と法体系	社会福祉の法体系、制度法律の位置づけと役割の理解及び具体的支援を学ぶ 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設	制度の整備、相談機関の役割、社会福祉財政、社会福祉施設の理解 予習：教科書p38-52 復習：教科書該当箇所・ワークシート
5	社会福祉の専門職	社会福祉分野（対人援助）における専門職及び児童福祉施設の専門職について理解 予習：教科書p54-64 復習：教科書該当箇所・ワークシート
6	社会保障および関連制度の概要	社会保障制度の対象、役割、具体的対応の理解 予習：教科書p66-76 復習：教科書該当箇所・ワークシート
7	相談援助の理論	相談援助の成り立ち、発展の概略及び現場実践での留意点を学ぶ 予習：教科書p78-88 復習：教科書該当箇所・ワークシート
8	相談援助の意義と機能	専門職として相談援助を行う意義や態度、あり方、価値・倫理、原則の理解 予習：教科書p90-100 復習：教科書該当箇所・ワークシート
9	相談援助の対象と過程	相談援助の対象、過程、援助者の態度や視点の理解 予習：教科書p102-112 復習：教科書該当箇所・ワークシート
10	相談援助の方法と技術	相談援助技術の特性及び環境や社会資源との関連、関係機関との連携や課題の理解 予習：教科書p114-126 復習：教科書該当箇所・ワークシート
11	利用者の保護にかかわるしくみ	利用者保護制度の背景や法的根拠、しくみ、今後の課題について学ぶ 予習：教科書p128-138 復習：教科書該当箇所・ワークシート
12	少子高齢化社会における子育て支援	少子化の現状及び対策の展開、保育所の役割についての理解 予習：教科書p140-150 復習：教科書該当箇所・ワークシート
13	共生社会の実現と障害者施策	障害のとらえ方及び現状、障害者福祉施策の展開過程、保育所の役割を学ぶ 予習：教科書p152-162 復習：教科書該当箇所・ワークシート
14	在宅福祉・地域福祉の推進	地域福祉の考え方や実践方法、地域住民、隣接領域の専門職とのかかわり方を学ぶ 予習：教科書p164-174 復習：教科書該当箇所・ワークシート
15	諸外国の社会福祉の動向	福祉国家とは何か、先進諸国の現状及び歴史的な経緯について理解する 予習：教科書p176-186 復習：教科書該当箇所・ワークシート

《専門科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

幼児、児童及び生徒の発達に関する代表的な理論を踏まえて、発達概念及び教育における発達理解の意義を理解する。乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達について学ぶ。学習に関する代表的な理論の基礎を理解する。主体的学習を支える動機づけや集団作りなどのあり方について、発達の特徴と関連付けて理解する。発達を踏まえた学習活動を支える指導の基礎的知識を学ぶ。

《授業の到達目標》

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、毎時間の授業で提出するリアクションペーパーの記載内容30%で総合評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達を理解することの意義	発達を理解することの意義と方法、個人差について理解する。＜授業外＞テキスト「1コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
2	子どもの発達と環境	発達の規定因について学び、子どもが育つ環境の影響について理解を深める。＜授業外＞テキスト「2コマ目」を精読し予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
3	発達に関する理論	精神分析など代表的な発達理論を学び、発達の考え方について理解する。＜授業外＞テキスト「3コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
4	子ども観と保育観	子ども観と保育観に関する代表的な考え方を学び、保育の課題について理解を深める。＜授業外＞テキスト「4コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
5	社会情動的発達	感情や社会性の発達について学び、親子関係および仲間関係の変化を理解する。＜授業外＞テキスト「5コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
6	学級集団の理解と活用	集団の機能について理解を深め、その活用方法について考える。＜授業外＞配布資料を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
7	身体的機能と運動機能の発達	身体・運動機能の発達の原理と特徴を理解する。＜授業外＞テキスト「6コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
8	認知の発達	認知発達理論をベースに、感覚・知覚の発達を理解する。＜授業外＞テキスト「7コマ目」「8コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
9	知能とパーソナリティ	知能の構造と個人差について学ぶとともに、検査の方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
10	言語の発達とコミュニケーション	言語発達の段階と乳幼児のコミュニケーションについて理解する。＜授業外＞テキスト「9コマ目」「10コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
11	発達に偏りのある子どもの理解と支援	主な発達障害について学び、特別支援教育やインクルーシブ保育について理解する。＜授業外＞テキスト「11コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
12	乳幼児期の学びに関わる理論1	学習理論を学び、行動を身に付ける過程を理解する。＜授業外＞テキスト「12コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
13	乳幼児期の学びに関わる理論2	2つの動機づけについて学び、自己効力感を育む保育のあり方について考える。＜授業外＞テキスト「13コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
14	乳幼児期の学びの過程と特性	日常場面における学びを支える人間関係や愛着の重要性を理解する。＜授業外＞テキスト「14コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。
15	乳幼児期の学びを支える保育	子どもの学びを促進する環境・保育のあり方について考える。＜授業外＞テキスト「15コマ目」を精読して予習する(2時間)。復習をする(2時間)。

《テキスト》

松本峰雄(監修) 2021 保育の心理学 演習ブック[第2版] ミネルヴァ書房

《参考図書》

谷口明子・廣瀬英子 2017 育ちを支える教育心理学 学文社
石井正子・松尾直博 2004 教育心理学 保育者をめざす人へ 樹村房
服部環 2012 「使える」教育心理学＜増補改訂版＞ 北樹出版

《授業時間外学習》

予習として、テキストの次回授業内容に該当するページを精読し、自らの興味関心および疑問点などを挙げる「予習ノート」を作成し、授業に臨むこと(2時間)。また、復習として「予習ノート」と「授業ノート」を照らし合わせて復習し、ノートの整理をすること(2時間)。本授業では予習・復習を合わせて合計60時間の授業時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りを行いません。

《専門科目》

科目名	子どもの保健				
担当者氏名	吉田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「子どもの保健」は、子どもの心身の健康を守ると同時に、子どもの健康を保持・増進させるために行うすべての活動を指している。その活動を行うためには、子どもを取り巻く社会、環境を学習すると共に、成長・発達に関する知識、子ども特有の病気の理解、予防の方法等、事故予防など多岐にわたる知識を必要とする。家族との連携を重視し子どもが健やかに成長するための支援について基礎的な知識を学習する。

《授業の到達目標》

- (1) 子どもを取り巻く社会の現状や歴史を学び、子どもの保健の重要性を説明できる。
- (2) 子どもの成長・発達を学び、広い視野で子どもを理解できる。
- (3) 子ども特有の病気について説明できる。
- (4) 子どもの事故を理解し予防行動を説明できる。

《成績評価の方法》

- ・ 終講筆記試験 = 60%
 - ・ 課題レポート・提出物40% 授業態度を加味する。
- 総合評価60%以上を合格とする。

《テキスト》

丸尾良浩 他「子どもの保健」 ミネルヴァ書房 2021
 小林玄 他 「子どもの保健と安全 演習ブック」ミネルヴァ書房 2020

《参考図書》

- ・ 丸尾良浩他「子どもの健康と安全」ミネルヴァ書房2020
- ・ 鴨下重彦「こどもの病気の地図帳」講談社、2002
- ・ 古荘純一「子どもの精神保健テキスト」第2班 診断と治療社 2019

《授業時間外学習》

- ・ 次回の講義の予習として、該当箇所の教科書を読み、予習すること。
- ・ 子どもの健康について関心を持ち、幅広い知識を身につけておくこと。

《課題に対するフィードバック等》

- ・ 不明点や疑問点については、講義内および講義終了後フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「子どもの保健」概要	・ 子どもの心身の健康と保健の意義 保健統計 小児医療変遷 テキスト P2～15 1～11
2	成長・発達 概要 1	・ 身体発育と保健 発達評価 テキスト P31～47 16～27
3	発達理論	・ エリクソン自我発達理論・ボウルビー愛着理論・ピアジェ認知発達論・ハヴィガースト発達課題 配布資料
4	運動機能の発達と保健	・ 原子反射、神経系 運動 感覚器 運動機能の発達と評価 DVD テキスト 46～55
5	生理機能の発達と保健 1	・ 呼吸、循環、体温、消化器、体液生理、の発達と評価 テキスト P56～66
6	生理機能の発達と保健 2	・ 消化吸収、排泄、睡眠、感覚器官、免疫機能の発達と評価 テキスト P68～78
7	成長・発達まとめ	・ 配布資料 によるワーキング レポート提出（発達全体）
8	子どもの病気と保育 1 .	・ 染色体異常、ダウン症候群の保健、成長発達支援 配布資料
9	子どもの病気と保育2	・ 感染症と保育 感染症と予防接種、 P114～120 162
10	子どもの病気と保育3	・ 消化器疾患、循環器疾患 川崎病 テキスト P124～131
11	子どもの病気と保育4	・ 中枢神経系疾患、重症心身障がい児（医療的ケア児のケアと保育 DVDD） レポート提出
12	子どもの病気と保育5	・ アレルギー疾患 整形外科疾患 テキスト P216～226 148～152
13	子どもの健康と安全 1	・ 子どもの事故と予防、災害時の対応 テキスト P124～139
14	子どもの健康と安全 2	・ 子どもの主要な症状への対応 小児の救急 テキスト P140～158
15	地域保健活動と保育	・ 地域社会での子ども関連支援と社会資源との連携 テキスト P228～243 レポート提出

《専門科目》

科目名	健康				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に示す領域「健康」の「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力」について以下を中心に理解する。

領域「健康」の位置づけ、ねらい、乳幼児期の健康な体と心、幼児期の運動発達課題、戸外遊び・自然遊びの意義、子どもの安全な生活とケガや事故

《授業の到達目標》

領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いを理解し、乳幼児期の健康について説明できる。乳幼児期のからだの発育・発達を理解し、援助していくうえで配慮すべき点を説明できる。乳幼児期の安全や健康に関する管理と教育を理解し、配慮すべき点を説明できる。領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の「体育」等とのつながりを説明できる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（40%）、筆記試験（60%）で評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

○吉田伊津美 他編著：保育内容 健康 光生館 2018
○幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》

○池田裕恵編：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」杏林書院2018
○河邊貴子他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020
○幼稚園教育要領解説書，保育所保育指針解説書，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
○その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示したテキスト等の該当頁を事前に読み授業に臨むこと。復習として、ノートおよびテキストを読み返しておく他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期の健康課題	乳幼児期の健康と現代的課題について考える [準備学習]テキストのP1-P7を事前に読んでおくこと
2	領域「健康」の位置づけとねらい・内容	領域「健康」の位置づけとねらい・内容・内容の取扱いを理解する [準備学習]テキストのP8-P15を事前に読んでおくこと
3	乳幼児期の体の形態的発育と健康	乳幼児期の形態的発育を知る [準備学習]テキストのP18-P27を事前に読んでおくこと
4	乳幼児期の体の機能的発育と健康	乳幼児期の体の機能的発育を知る [準備学習]テキストのP27-P31を事前に読んでおくこと
5	乳幼児期の運動発達	乳幼児期の運動発達の特徴を理解し、遊びの援助について考える [準備学習]テキストのP60-P73を事前に読んでおくこと
6	乳幼児期の視野	子どもの視野を体験し、子どもの動きについて考える（グループワーク） [準備学習]第3～5週で示したテキストの頁を事前に読んでおくこと
7	乳幼児期の生活リズムと生活習慣	乳幼児期における基本的な生活習慣の形成とその課題について考える [準備学習]テキストのP32-P45を事前に読んでおくこと
8	子どもの心の安定感と活動	子どもが「安定感を持って活動する」保育について考える [準備学習]領域健康のねらい・内容・内容の取扱いを事前に読んでおくこと
9	子どもの運動遊び	子どもが「自ら体を動かして活動することを楽しむ」保育について考える [準備学習]テキストのP139-P154を事前に読んでおくこと
10	園生活の構築	子どもが「生活の場をつくりだす」保育について考える [準備学習]幼稚園等のホームページから園生活の流れを調べておくこと
11	自分のからだや健康への関心	子どもが「自分のからだや健康への意識を高める」保育について考える [準備学習]保育所保育士指針の第3章の1を事前に読んでおくこと
12	食育	幼稚園等における食育について考える [準備学習]テキストのP105-P121を事前に読んでおくこと
13	乳幼児期の安全	乳幼児期のケガや事故の実態を知り、安全管理について考える [準備学習]テキストのP46-P59を事前に読んでおくこと
14	安全教育	幼稚園等で行う安全教育について考える [準備学習]テキストのP123-133を事前に読んでおくこと
15	領域「健康」と小学校教育のつながり	領域「健康」における、幼児教育から小学校教育への見通しや接続について考える [準備学習]テキストのP168-P179を事前に読んでおくこと

《専門科目》

科目名	人間関係				
担当者氏名	友澤 加代				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

生涯にわたる人間形成の基礎としての乳幼児期、子ども達の間関係の発達や機微を理解できるようにする。DVDの視聴や事例を読み、意見交換を行うことを通して、保育現場で子どもの姿と保育者の役割について理解する。

《テキスト》

無藤隆・古賀松香 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」 乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは― 北大路書房 2016

《参考図書》

幼稚園教育要領（文部科学省）平成29年
 保育所保育指針（厚生労働省）平成29年
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省）平成29年
 文部科学省特別選定DVD 3年間の保育記録 岩波映像株式会社

《授業の到達目標》

- ・「人と関わる力」の発達過程を事例を通して学び説明することが出来る。あそびにおける集団活動の意義について学び説明できる。
- ・乳幼児期の教育の重要性について人間関係の視点から理解し説明できる。
- ・気になる子ども、多様な子どもとのかかわりを説明できる。
- ・小学校、保護者、地域と連携について説明できる。

《授業時間外学習》

- ・授業内で指示された内容について、復習や予習を行う。
- ・授業の中で小テストを実施することがあるので復習しておく。

《成績評価の方法》

授業内の確認レポートおよび提出物（50%）、定期試験（50%）により総合的に評価する。

《課題に対するフィードバック等》

授業内で実施する、学習内容の理解を確認する小テストおよび提出物については、授業内にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会情動的スキルの育成	幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導 （準備学習）教科書序章を予習する。
2	領域「人間関係」とは何か	保育の基本と領域「人間関係」 （準備学習）教科書 第1章 p.21まで予習する。
3	現在に求められる保育内容「人間関係」	21世紀型スキルと我が国の保育の基準における保育内容 （準備学習）教科書 pp. 22 - 25 を予習する。
4	身近な人とのかかわりの中で育つ	愛着の形成 （準備学習）教科書 pp. 26 - 33 を予習する。
5	身近な人とのかかわりの中で育つ	自己の育ち （準備学習）教科書 pp. 34 - 41 を予習する。
6	自己の育ちを支える	保育者の役割を考える （準備学習）教科書 pp. 34 - 41 を予習する。
7	喜んで登園する	自己発揮 （準備学習）教科書 pp. 42 - 47 を予習する。
8	気の合う友達と一緒に遊ぶ	気持ちを表す、友達の思いに気づく （準備学習）教科書 pp. 48 - 52 を予習する。
9	いろいろな友達の中で生活する	自己主張、葛藤の体験 （準備学習）教科書 p.53 を予習する。
10	仲間と一緒に遊びや生活を進める	集団の中で育ちあう個と集団 （準備学習）教科書 pp. 98 - 117 を予習する。
11	気になる子どもにどうかかわるか	「気になる」ことの本質 「準備学習）教科書 pp121 - 141 を予習する。
12	多様な子どもにどうかかわるか	発達に躓きのある子ども、外国籍の子ども、共感 （準備学習）配布プリントを予習する。
13	小学校教育との連続性	子どもの育ちと連携 （準備学習）教科書 pp. 142 - 147 を予習する。
14	育ちに関わる保育者集団	徹底的に子どもの側に立って考える保育者集団として育つ （準備学習）教科書 pp. 160 - 169 を予習する。
15	育ちにかかわる人間関係としての保護者、地域	保護者、地域との連携 （準備学習）教科書 pp. 148 - 152, p. 159 を予習する。

《専門科目》

科目名	環境				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本科目では、発表・討議を通して子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を身につけられるよう、背景となる専門領域と関連させながら領域「環境」のねらいや内容についての理解を深める。また、コミュニケーション・スキル等の汎用的技能を修得するとともに他者と協働して生涯にわたり自律・自立して学修できる能力を培う。

《授業の到達目標》

- (1) 幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。
- (2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と取扱い上の留意点を説明できる。
- (3) 「環境」で扱う教材や遊びについて熟知し、説明できる。
- (4) 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わるとともに、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。

《成績評価の方法》

全体で100%とし、「定期試験における筆記試験50%」、「レポート35%」、「学修に対する関心・意欲・態度15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期の教育の基本と全体構造	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す幼児期の教育の基本と領域「環境」の全体構造〔時間外学習〕幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通してくる。(テ:幼32-55)
2	領域「環境」のねらいと内容	幼稚園教育要領や保育所保育指針が示す領域「環境」のねらいと内容〔時間外学習〕領域「環境」のねらいと内容についてまとめてくる。(テ:幼116-11)
3	自然への気付き	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどへの気付きを育む(発表・討議)内容1〔時間外学習〕自然と触れ合う遊びや教材について調べてくる。
4	物の性質や仕組みへの興味や関心	物の性質や仕組みに対する興味や関心を育む(発表・討議)内容2〔時間外学習〕内容1:物の性質や仕組みについての遊びや教材を調べてくる。
5	自然や人間生活の変化への気付き	季節による自然や人間生活の変化への気付きを育む(発表・討議)内容3〔時間外学習〕自然や人間生活の変化に関わる遊びや教材について調べてくる。
6	身近な事象への関心と遊び	身近な事象への関心を育む(発表・討議)内容4〔時間外学習〕身近な事象に関心をもつ遊びや教材について調べてくる。
7	動植物との関わりと気付き	身近な動植物との関わり、生命の尊重きを育む(発表・討議)内容5〔時間外学習〕実習園で取り組んでいる動植物と触れ合う事例について調べてくる。
8	文化や伝統に親しむ	様々な文化や伝統、行事に親しむことを育む(発表・討議)内容6〔時間外学習〕文化や伝統、行事に親しませる遊びや教材について調べてくる。
9	物や遊具との関わり	物や遊具と関わり、比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりする(発表・討議)〔時間外学習〕物や遊具についての遊びや教材事例について調べてくる。
10	数量や図形などへの関心	日常生活の中での数量や図形などへの関心を育む(発表・討議)内容9〔時間外学習〕数量や図形への関心を促す遊びや教材について調べてくる。
11	標識や文字などへの関心	日常生活の中での簡単な標識や文字などへの関心を育む(発表・討議)内容10〔時間外学習〕標識や文字へ関心を促す遊びや教材について調べてくる。
12	情報や施設などへの興味や関心	生活に關係の深い情報や施設などへの興味や関心を育む(発表・討議)内容11〔時間外学習〕情報や施設に興味・関心を持たせる遊びや教材について調べてくる。
13	国旗に親しむ	幼稚園内外の行事において国旗に親しむ(発表・討議)内容12〔時間外学習〕国旗に親しむ遊びや教材について調べてくる。
14	教材や遊びを通して「環境」の学びを育む留意点	領域「環境」における教材や遊びの工夫・留意点〔時間外学習〕幼児期に扱われる教材や遊びの基本についてまとめてくる。
15	内容の関連性と連続性	各領域の内容の関連性と小学校以降の教科等とのつながり〔時間外学習〕学びの連続性の確保がどのように行われているか調べてくる。

《テキスト》

- ・「幼稚園教育要領ハンドブック」武藤隆監修、学研
- ・「保育所保育指針ハンドブック」汐見稔幸監修、学研

《参考図書》

- ・あしたの保育が楽しくなる実践事例集 ワクワク!ドキドキ!が生まれる環境構成-3・4・5歳児の主体的・対話的で深い学び-、編集代表 岡上直子、ひかりのくに
- ・事例で学ぶ保育内容 領域「環境」新訂 無藤隆監修、紀伊國屋書店
- ・「保育内容 環境」神長 美津子他著、光生館

《授業時間外学習》

- ・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回1時間の学修が必要である。
- ・事前学習として、授業計画に示した学習内容についてテキストや文献等を検索してまとめてくる。
- ・事後学習として、学修を振り返り理解を深める。

《課題に対するフィードバック等》

領域「環境」のねらい及び内容を振り返り、身につけることができるよう学修履歴表及びレポートを作成する。提出された学修履歴表等は、コメントを付してフィードバックする。

《専門科目》

科目名	言葉				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力の一つである「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」を養うため、領域「言葉」の背景となる専門的な知識を理解し、話し合いや発表を通して言葉の育ちを支える保育者としての意識を高める。

《授業の到達目標》

幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく言葉の内容と指導上の留意点を説明することができる。また、幼児教育・保育における評価の考え方を理解し、領域「言葉」と他領域の関わり、小学校の教科等とのつながりについて述べることができる。

《成績評価の方法》

授業中の小レポートを40%、最終レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）
「新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉」2018萌文書林

《参考図書》

「よくわかる 言語発達」[改訂新版]2017ミネルヴァ書房
「コンパス保育内容 言葉」[第2版]建帛社

《授業時間外学習》

次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、テキストの該当ページを精読した上で、文献・インターネット等を用いて自己学習し授業に備えるとともに、授業後に学びの振り返りを行うこと。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業中のレポートにはコメントをつけてフィードバックするとともに、次の授業で解説して前時の振り返りをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育・保育の基本	幼稚園教育要領・保育所保育指針の全体構造と5領域についての理解 〔時間外学習〕幼稚園教育要領・保育所保育指針に目を通しておくこと
2	領域「言葉」のねらいと内容	教育要領・保育指針における領域「言葉」のねらいと内容についての理解 〔時間外学習〕教育要領の第2章の「言葉」を読んでおくこと
3	領域「言葉」と他領域との関係	領域「言葉」と他領域及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関わり 〔時間外学習〕テキスト第1章 §7を読んでおくこと
4	乳幼児期の発達と言葉	乳幼児の言語発達の過程及び言語能力の特性についての理解 〔時間外学習〕テキスト第2章 §1を読んでおくこと
5	乳幼児期の言語能力の育成	乳幼児の言語能力を育てるための大人の存在、保育者の姿勢及び指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第2章 §2を読んでおくこと
6	幼児の言葉の実際	遊びの中における幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第2章 §3を読んでおくこと
7	快・不快の気持ちを表現する幼児の言葉	様々な感情体験の中で生まれる、快・不快の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §1を読んでおくこと
8	自分の思いを表現する幼児の言葉	自分の気持ちや考えを表現する幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §2を読んでおくこと
9	生活に必要な幼児の言葉	仲間との生活の中で必要な幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第3章 §3を読んでおくこと
10	幼児の言葉の理解を促す指導	数量、大きさ、位置、順序、色彩等を表す言葉の理解を促す指導とその留意点 〔時間外学習〕数量、大きさ、位置等の理解を促す工夫を考えておくこと
11	文字に対する幼児の興味	文字に対する興味、文字で伝えることの楽しさを味わわせる工夫と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第6章を読んでおくこと
12	絵本と幼児の言語発達	幼児の言語発達の観点から見た絵本の特徴と読み聞かせの工夫 〔時間外学習〕絵本を用意し、作品中の表現の特徴について調べておくこと
13	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達	絵本の読み聞かせと幼児の言語発達の理解及び指導上の留意点 〔時間外学習〕読み聞かせの練習をしておくこと
14	「ごっこ遊び」幼児の言語発達	様々な「ごっこ遊び」の中で育つ幼児の言葉の実際と指導上の留意点 〔時間外学習〕テキスト第7章を読んでおくこと
15	領域「言葉」と小学校の教科との関連	領域「言葉」と小学校以降の教科等とのつながりに対する理解 〔時間外学習〕テキスト第8章 §4読んでおくこと

《専門科目》

科目名	表現				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、伊東 一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

表現活動の3領域である「音楽表現」、「造形表現」、「身体表現」の基礎的な知識を学ぶ。特に幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「表現」に示されている、ねらいおよび内容を理解し、保育現場で実践されている表現活動について理解を深める。また、本授業は「表現」をキーワードとして、幼少期の思い出に関するグループディスカッションや保育者役となって表現活動を行うなど、実践的な学びを展開する。

《授業の到達目標》

本科目では、「音楽」「造形」「身体」の各表現の学びを通じて、以下の目標の到達を目指す。保育現場における表現活動の具体的な実践方法や保育者の配慮事項を理解し、実践できる。本科目の学習内容を踏まえ、「音楽表現領域指導法」「造形表現領域指導法」「身体表現領域指導法」の専門技能と保育実践力に関する基礎的な知識について説明できる。

《成績評価の方法》

授業後の学習記録用紙の記述内容(25%)、実技試験(最終授業/75%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館、厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

《参考図書》

無藤 隆(監修)『事例で学ぶ 領域 表現』萌文書林
井口太代表編者:「新・幼児の音楽教育」朝日出版社
蓮見清一(発行人)『たのしい手あそびうた DVDブック』宝島社

《授業時間外学習》

各回の学習内容に提示した時間外学習について、図書やインターネットを用いて予習・復習すること。
本授業は15時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に課題レポートを提示し、コメントを記載して次の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児期における表現活動の意義(古木)	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「表現」のねらいと内容〔時間外学習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「表現」の箇所を読む(予習・復習1時間)
2	子どもの音楽的発達段階(越智)	発声器官の発達と声域について〔時間外学習〕乳児期の聴覚の発達について調べておく(予習・復習1時間)
3	諸外国の音楽教育(越智)	カール・オルフ、コダーイ・ゾルターンの音楽教育について〔時間外学習〕19世紀後半から20世紀中頃のハンガリーについて調べておく(予習・復習1時間)
4	リトミックとは(越智)	リトミックにおける教育理念とシステムについて〔時間外学習〕エミール・ジャック=ダルクローズについて調べる(予習・復習1時間)
5	音楽表現活動における導入(越智)	音楽表現活動における導入の留意点について、先行研究を通して学ぶ〔時間外学習〕幼少期にどのような歌唱を行ったか振り返る(予習・復習1時間)
6	五領域:表現(造形表現活動)とは(伊東)	乳幼児の表現(造形)活動の意味や考え方〔時間外学習〕保育指針の乳児保育に関わるねらい及び内容、幼児期における領域「表現」のレポート(予習・復習1時間)
7	乳児の造形表現活動に見られる育ちの姿(伊東)	保育現場における乳児の造形表現の姿から育ちの姿を考える〔時間外学習〕子どもの絵や作品を見て感じたことや考えたことをレポートにまとめる(予習・復習1時間)
8	幼児の造形表現活動に見られる育ちの姿(伊東)	保育現場における幼児の造形表現活動の姿から育ちのつながりを考える〔時間外学習〕画用紙を使って「変身カードづくり」を考え製作する(予習・復習1時間)
9	乳幼児の造形表現を高める造形活動(伊東)	乳幼児が意欲的になれるような造形表現活動を考える〔時間外学習〕保育指針の「保育の環境」を読み、レポートにまとめる(予習・復習1時間)
10	乳幼児の造形表現を高める援助と環境(伊東)	乳幼児が表現の楽しさや面白さを主体的に感じられる保育者の援助〔時間外学習〕子どもが手軽に作って演じる「ペープサート」を考え・演じる(予習・復習1時間)
11	子どもの発達と身体表現(古木)	乳幼児の発達段階における身体表現の出現、表現の発達〔時間外学習〕身体表現に関する幼少時代の思い出を振り返る(予習・復習1時間)
12	園行事の身体表現活動(古木)	運動会遊戯や表現発表会における身体表現活動の指導・援助法〔時間外学習〕身体表現に関する園行事を振り返る(予習・復習1時間)
13	手遊びの実践(練習)(古木)	季節や行事に関連する手遊びの実践、動き・見せ方などの留意点〔時間外学習〕参考図書など、できるだけ多くの手遊びについて調べる(予習・復習1時間)
14	手遊びの実践(小発表)(古木)	前次で学習した手遊びをの発表、演じ方の考察〔時間外学習〕手遊びの行う際の留意点について自己学習する(予習・復習1時間)
15	音楽・造形・身体表現活動の実践(全担当)	各領域における表現活動の実践(実技テスト)と指導・援助の留意点〔時間外学習〕選択した表現領域の実践内容について予習する(1時間)

《専門科目》

科目名	乳児保育				
担当者氏名	小澤 美鈴				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

乳児保育が求められる社会的背景を理解する。
乳幼児期は人間形成の基礎であり、特に人格形成にはまわりの人のかかわりが大切である事を学ぶ。
乳児が健康で安全に生活できるような環境を学び、発達に応じた遊びやかかわり方を身につける。

《テキスト》

「乳児保育」 中央法規
保育所保育指針と解説書

《参考図書》

乳児の発達と保育 エイデル研究所
0歳児の育ちの事典 小学館
1歳児の育ちの事典 小学館
2歳児の育ちの事典 小学館

《授業の到達目標》

乳児保育が必要とされる社会の変化、背景を理解し、現在子育て中の親について理解する。

乳児の成長発達を理解する。

乳児はまわりの人から手厚い世話を受け、応答的な関わりの中で、人への信頼感を獲得することを理解する。

《授業時間外学習》

次回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行うことが望ましい。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）演習課題・授業への取り組み（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

不明点や疑問点について、講義内でフィードバックし、受講者の状況に応じて、授業を進めていく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の意義	乳児保育の意義、目的、歴史的背景 予習 教科書 第1講を読む
2	乳児保育の歴史と現状、制度	乳児保育、子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 予習 教科書 第2講を読む
3	保育所の乳児保育の現状を知る	保育所における乳児保育 予習 教科書 第3講を読む
4	児童福祉施設を知る	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 予習 教科書 第4講を読む
5	家庭的保育所、小規模保育所について学ぶ	家庭的保育、小規模保育における乳児保育 予習 教科書 第5講を読む
6	乳児を抱える家庭の環境	3歳未満児とその家庭をとりまく環境 予習 教科書 第6講を読む
7	乳児の生活リズムと環境	3歳未満児の生活と環境 予習 教科書 第7講を読む
8	乳児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境 予習 教科書 第8講を読む
9	幼児保育への移行の保育	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 予習 教科書 第9講を読む
10	幼児保育をふまえた援助と関わり	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育者による援助と関わり 予習 教科書 第10講を読む
11	幼児保育を踏まえた保育	3歳以上児の発育、発達をふまえた保育の配慮 予習 教科書 第11講を読む
12	職員間の連携について	乳児保育の職員間の連携、協働 予習 教科書 第13講を読む
13	保護者との連携の大切さ	保護者との連携、協働 予習 教科書 第14講を読む
14	地域との連携	自治体や地域の関係機関等との連携、協働 予習 教科書 第15講を読む
15	乳児の遊びと環境整備	遊びの場の環境整備 布や紙、牛乳パック等を利用して、玩具を作成する

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎				
担当者氏名	越智 光輝、山田 真澄、根岸 恭子、平峯 章生、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 2-2 知識・技能 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲(バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ)と童謡(子どもの歌)の弾き歌いを、隔週で交互に学ぶ。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、

- ・童謡の弾き歌いを5曲以上習得することができる。
- ・参考図書 ~ より指定された1曲のピアノ曲を、決められた小節まで演奏できる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡の弾き歌いの合格数50%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝 「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ! レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》

(1) 進捗状況に応じて次の ~ より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。

全訳バイエル 全音楽譜出版社
ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
ソナチネアルバム 巻 全音楽譜出版社

(2) 入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》

授業(個人レッスン)は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つけた課題を解決する場と捉え、教員から提示された次の授業までの課題曲を、自己学習しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び14週目の授業にてピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学修の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲及び3週目で発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、5週目で発表する童謡 3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡 3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡 3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、13週目で発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表
13	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表 3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏(ノーカット、リピートなし)及び演奏の振り返り
15	童謡伴奏の習得、1年次後期における学び	童謡の弾き歌い発表、保育のピアノ基礎 での学修計画

《専門科目》

科目名	保育の造形				
担当者氏名	伊東 一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能				

《授業の概要》

乳幼児の豊かな表現を育成することを目的とし、保育現場を想定した基礎的な造形活動の知識と技法を、以下を中心に学ぶ。

保育の造形について（発達段階、季節、行事、環境などに応じた題材） 形と色について（造形活動の基礎知識） 素材と道具について（鉛筆、クレヨン、絵の具、などを用いた技法の習得）

また、制作活動のほかに発表やグループ学習を行う。

《授業の到達目標》

乳幼児の造形活動の意義と目的を説明することができる。

乳幼児の発達段階に応じた、造形活動の内容を考慮し提案することができる。

保育の現場における行事や環境に応じた題材について説明することができる。

造形活動における基礎的な知識を身につけ、保育の現場で用いられる素材と道具を用いた活動を行うことができる。

《成績評価の方法》

授業ごとの提出課題60%、最終レポート40%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

岡田京子『学び合い高め合う「造形遊び」』東洋館出版,2015
浅羽聡美『アートという文脈で保育を考えてみると』atelier le matin,2017

槇英子『保育をひらく造形表現 第2版』萌文書林,2018

《授業時間外学習》

授業で身につけた知識と技法を、実習や学校内の制作活動で応用することなどを通して自己学習を行う。

また授業時間内において完成できなかった作品については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。

《課題に対するフィードバック等》

授業内における制作、小テスト、最終レポートを作成する課題を課す（授業内において、適宜、講評する）。また、図工セット・材料を毎回持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の造形活動	乳幼児の豊かな表現の育成についての学習（ワークシート） 保育の現場における造形活動の事例（制作）
2	乳幼児の発達段階に応じた造形活動	乳幼児の発達段階についての学習（ワークシート） 発達段階に応じた造形活動の事例（制作）
3	形の基礎知識	造形活動の基礎となる形についての学習（ワークシート） 基礎的な形の構成による造形活動（制作・プレゼンテーション）
4	色の基礎知識	色の基礎知識（色相・彩度・明度など）についての学習（ワークシート） 基礎的な色の構成による造形活動（制作・プレゼンテーション）
5	描画活動の基礎知識	鉛筆、クレヨンなど保育の現場で用いられる道具についての学習（ワークシート） 鉛筆、クレヨンなどを用いた描画活動（制作）
6	保育現場における季節の造形活動（春）	保育の現場における春の行事と造形活動の事例（ワークシート） 事例を参考にした造形活動（グループディスカッション・制作）
7	絵の具による造形活動	保育の現場における絵の具の使用と活動事例（ワークシート） 技法の実践：フロッタージュ、デカルコマニ など（制作）
8	絵の具による造形活動	技法の実践：スパッタリング、スタンピングなど（制作） 主題に対する技法の応用（制作・プレゼンテーション）
9	素材の基礎知識	保育の現場で用いられる造形活動の素材と活動事例（ワークシート） 自然物による造形活動（制作）
10	道具の基礎知識	保育の現場で用いられる造形活動の道具と活動事例（ワークシート） ハサミ、接着剤による造形活動（制作）
11	環境の基礎知識	屋内・屋外、各施設の環境状況に応じた活動事例（ワークシート） 主題に応じた造形活動（制作）
12	作品の基礎知識	子どもの作品に対する見方や保管方法などについての学習（ワークシート） 子どもの絵の見方（グループディスカッション）
13	造形活動における環境づくり	造形活動において望ましい環境づくりについて（ワークシート） 事例に応じた注意点と対策（グループディスカッション・プレゼンテーション）
14	保育現場における季節の造形活動（夏）	保育の現場における夏の行事と造形活動の事例（ワークシート） 事例を参考にした造形活動（グループディスカッション・制作）
15	造形活動の指導	本授業を通して学習した知識と技能の振り返り（ワークシート） 乳幼児に対する造形活動の提案（グループディスカッション・プレゼンテーション）